

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会
グループホーム くんわ

(外部サービス利用型共同生活援助事業)

目 次

1	はじめに	・・・ 1
2	利用者状況	・・・ 1
3	支援内容	・・・ 2～4
4	職員研修内容	・・・ 4
5	年間行事イベント内容	・・・ 5

1. はじめに

令和5年5月から新型コロナウイルスが5類に移行になったが、コロナ感染に振り回された1年でもあった。併せて円安、原油高、経費値上げ要請など社会情勢の影響を受け物価高騰が続き、経費の見直しやフードロスの削減等を行ったが、給食費、ホームの老朽及び災害等による修繕費・賃借料、業務委託費、5類移行に伴い控えていたイベント・外出支援等実施などで事業費及び事務費が膨らんだ。

利用者については、高齢化に伴い病気（癌・糖尿にて急変）で3名の方がお亡くなりなり、現員は50名（定員55名に対し5名減）となった。このことにより事業収入が前年度に比べ約240万円減額となった。市町村福祉課をはじめ各相談支援事業所等との連携や支援学校や病院等への見学の呼びかけを行い、利用者獲得につなげていかなければならない。

2. 利用者状況

(1) 定員数 55名（現員 50名）（令和6年3月31日現在）

GH名称	定員	現員	男性	女性	療育状況					平均年齢
					B1	B2	A2	精神	身体	
くんわホーム	9	9	9	0	4	2	1	1		55.3歳
治誠寮	5	5	2	3	4				1	54.8歳
第二治誠寮	7	7	7	0	3	2	1	1		61.1歳
かがやきハイツ	9	7	0	7	3		4			54.8歳
ひだまり	7	7	5	2	3		1	2	1	56.1歳
コーポ赤水	9	7	7	0	1	4	3			55.5歳
くろかわ	9	8	5	3	1	3	3	1		41.1歳
合計	55	50	35	15	19	11	13	4	2	54.1歳

(2) 障害区分状況

障害区分	区分なし	区分2	区分3	区分4
人数	43名	3名	2名	2名

3. 支援内容

1 利用者支援

(1) 健康管理に関する支援

- ・年1回の健康診断を受ける様積極的に呼びかけ受診を行ってきた。又必要に応じて胃カメラ・大腸検査やエコー検査も行い、早期の対応に当たってきた。
- ・各グループホーム1日2回の検温とバイタルチェックを行い、体調不良等の様子観察等を行い各事業所と連携を図り対応してきた。
- ・主治医からの指導・助言の有った方に対しては、カロリーを抑えた食事やカッ

ト食等で対応し、糖尿病の方には、塩分控えた食事提供を行ってきた。

- ・脂肪肝・コレステロールが高い方については運動療法が取り入れられる様、適度な運動を声掛けや促しを行い日課に取り入れていける様世話人へも周知し支援を行った。
- ・10月にクラスターの新型コロナウイルス感染が広がった為、各グループホーム弁当を作り部屋食にて対応した。
- ・歯磨きの習慣を意識出来る様各GH世話人さんからの声掛け促しを再度行った。必要に応じブラッシング指導の受診を行った。
- ・服薬管理に於いては、毎食後世話人が確認を行っている。

(2) 利用料の負担に対する支援

- ・外出時に於いてのエアコン等の消し忘れ及び温度調整を行い無駄な電気使用を無くす様声掛け助言を行った。
- ・晴天時の洗濯物の乾燥機の使用が多くあった為、声掛け説明を行ってきた。
- ・食品・食材及び調味料等に於いては買いすぎに注意を促し食品ロスを無くす様各GH世話人への周知を図った。

(3) 生活機能低下予防・支援

- ・今まで自分で出来ている事は残存し、苦手な事や出来ない箇所についてはフォローし支援を行った。
- ・買い物支援を利用される方に於いても、自分で選び購入出来る様支援を行った。

(4) コロナ禍での柔軟な対応と予防

- ・新型コロナウイルス感染期も緩和されてきた為、屋外でのマスク着用は無くし、外出等のイベントも計画し行ってきた。
- ・検温については、職員及び利用者ともに朝・夕継続測定行ってきた。
- ・外出・外泊時についても体調・行動等の記録をお願いし把握に当たった。

(5) 地域を利用した生活面での支援

- ・地域生活する中で地域の店を利用し、散髪や買い物に行ける様、計画を立て実行出来る様支援を行い、単独利用出来る方が多くなった。

2 金銭管理

- ・払い出した金銭に於いては、各GHごと金銭出納帳に記し領収書を添付している。
- ・依頼額に於いては使用目的を聞き相談しながら決め、嗜好品等が生活費を超えない様に、収入と支出との兼ね合いに於いても通帳確認を行いながら説明を行ってきた。
- ・本人及び家族又後見人への支出等の報告・通帳確認を定期的に行ってきた。
- ・月付の小遣い等の管理が出来る利用者に関しては小遣い帳を付ける事で支出や計算の理解が出来る様に支援を行った。

3 食事に関する支援

- ・栄養士の献立で栄養バランスを考え、季節感や家庭的なメニュー作りを心掛け、利用者の嗜好を聞きながら又、個々に合わせたカロリー食やカット食の提供等行った。
- ・偏食なく、規則正しい食事摂取が出来る様、食材の栄養面での声掛け説明を行った。
- ・調理器具等の消毒殺菌はこまめに行い食中毒予防に十分な注意を払ってきた。

4 日常生活（清潔・衛生・整理整頓）支援

- ・身なりについては、季節に合わない格好、汚れや破れを気にせず外出することもあり、清潔・整容、身だしなみやマナーなどを助言するとともに、各世話人へ周知し支援を行った。
- ・入浴されない方に於いては、世話人へ食事前には必ず声掛け促しを支援し、日中事業所と連携し清潔保持への説明助言を行ってきた。

5 家族との連絡調整・連携

- ・病院受診や健康状態の説明・報告をご家族にも行い、治療等の方向性の確認を行ってきた。又帰省に於いての連絡調整を行い、利用者及び家族からの相談・苦情等を聞き早急に対応に当たった。

6 買い物・外出支援

- ・コロナ5類移行に伴い、買い物、外出等の制限を感染症等に留意しつつ緩和した。
- ・単独買い物に行けない又長時間歩けない・交通機関が利用できない方に於いては買い物支援を行い、外食やドライブ等の外出支援に於いては希望を聞きながら少人数小分けし行った。
- ・イベントに於いては、敬老の日や水俣、久住等（2班に分け）利用者も大変喜んで頂き満足を得た。

7 相談支援

- ・利用者の相談業務に於いては、利用者が相談しやすい環境を確保し話を聴く体制を取る様、世話人への周知も行い心掛けてきた。
又、各関係機関・相談支援事業所を交え、利用者のニーズに沿って担当者会議等を行った。

8 緊急時対応

- ・夜間・休日時の体調不良や病状急変時又事故等の対応については、速やかに医療機関へ連絡し対応行った。又家族への連絡説明等も随時行ってきた。

9 防災対策

- ・災害時における避難訓練の実施に付いては、シュミレーションを行い、緊急時に於いての避難経路及び非常連絡網等の確認を行った。
タバコは喫煙場所で後始末又世話人の退勤時には火元確認を必ず行い、普段より

火災への意識を高められる様声掛け説明を行ってきた。

- ・消防設備の点検・整備を行い、非常時用の衛生用品及び非常食等備蓄品の点検確認を行った。

10 職員のスキルアップ向上

- ・全スタッフが柔軟な対応が出来る様、スタッフ会議では情報の共有を行い全利用者の状況把握に努めた。
利用者の知りえた情報等については、守秘義務を守りプライバシーへの十分な配慮を行う様周知徹底した。又定期的に会議の中で虐待防止についての勉強会も行ってきた。
- ・「ピネル記念病院」小笠原理事長を講師に招き、障害者の知識、関わり方等を学び、職員の意識向上を図った。

11 行政及び関係機関との連携

- ・個々の状況等に応じ、行政関係・各事業所又医療機関との担当者会議やカンファレンス等を行い、利用者のニーズに対応してきた。

12 地域交流と社会参加の促進

- ・コロナ禍にあり大きなイベントの開催が出来なかった為、地域の方と一緒に食する場はなかったが、地域生活しているうえで地域清掃（クリーンクリーン作戦）を利用者・スタッフ一緒に行った。

4. 職員研修内容

月	事業所内	事業所外
4	GHスタッフ会議	
5	GHスタッフ会議	
6	GHスタッフ会議	
7	GHスタッフ会議	
8	GHスタッフ会議	
9	GHスタッフ会議	・ピネル記念病院：小笠原 Dr 講演
10	GHスタッフ会議	
11	GHスタッフ会議	
12	GHスタッフ会議	
1	GHスタッフ会議	
2	GHスタッフ会議	
3	GHスタッフ会議	・九州地区知的障害者福祉協会：種別部会・合同研修会 ・サビ管研修（リモート）

5. 年間行事イベント内容

	行事・イベント	地域活動・検診等	防災
4月	・ミニ祭り（くんわの里）	・地域清掃（クリーン作戦）	・消防設備点検
5月	・神楽苑（蕎麦）食事会		
6月	・バーベキュー		
7月		・阿蘇市住民健診	・避難訓練
8月			
9月	・敬老の日イベント（外食・北里柴三郎記念館）		・消防設備点検
10月		・阿蘇市住民健診	
11月	・秋まつり（くんわの里）	・阿蘇市住民健診 ・インフルエンザ予防接種	・消防設備点検
12月	・もちつき（くんわの里） ・阿蘇神社ちょうちん祭り・食事会 ・大晦日（年越しそば・魚）	・コロナワクチン6回目 予防接種	
1月	・1/1 正月（お節料理・お雑煮）		・消防設備点検
2月	・2/2 節分・恵方巻き		
3月	・イベント（水俣スペイン村） ・ひな祭り（海鮮ちらし寿司）	・健康診断	・消防設備点検

6. 課題・次年度への提言

利用者の方が高齢化になっており、老人疾患などのリスクが高まってきている。この状況下でグループホーム利用しながら老人デイサービスを利用するケースが予想される。市町村と連携しつつ今後の支援の在り方を検討しなければならない。就労などの日中支援事業とグループホームの関係、住まいなどを見直す時期になっている。

精神的・経済的自立を促していくうえで、マナー、日常生活、就労、金銭管理など大事なことを今一度指導を行っていく。

定員割れが続いており、入居者に当たっては、福祉課や各相談支援事業所と連絡を取りながら、病院・支援学校等の見学及び体験を呼びかけ満床となる様努める。